

HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第 2660 地区)

WEEKLY BULLETIN

No.11

東大阪中央ロータリークラブ

創 立 昭和47年2月20日
例 会 日 毎週月曜日 12:30～
例会場所 シェラトン都ホテル大阪 3F
事 務 局 東大阪市小阪本町1丁目5-14
〒577-0802 小阪本町ロイヤルハイツ 405 号
TEL : 06-6753-8823
FAX : 06-6753-8826
E-mail : jahcrc@gmail.com



会 長 宮 田 照 男
会 長 ノ ミ ニ ー 金 子 勝 信
副 会 長 岩 崎 史 郎
幹 事 岩 橋 竜 介
会 報 委 員 長 伊 藤 雄 一

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

ロータリー：変化をもたらす

2017～2018 年度 国際ロータリー会長 イアン H. S. ライズリー

第 2065 回例会 平成 29 年 10 月 16 日 (月曜日) 第 11 号

本日の例会 10月16日 (月) 第1例会
◎ソング 『我等の生業』
◎卓 話 「ワインの話、パート2」
◎ゲストスピーカー (社) 日本ソムリエ協会 認定
シニアソムリエ 森浦 徹様
担当：浅野 光男会員
◎本日の献立 軽食カレー

次回の例会 10月30日 (月) 第2例会
片山 勉バガナー公式訪問
東大阪西ロータリークラブとの合同例会
シェラトン都ホテル 「志摩の間」 12:30～

前回の例会 9月28日 (月) 第2例会
東輪会合同例会
シェラトン都ホテルに於いて



東輪会出席報告 飯田 政信 会員

本日の会員数	213名
本日の出席者数	132名
本日の出席率	61.97%

講 演 「東大阪モノづくりの源流」

ー 弥生時代の銅鐸づくりー

東大阪市教育局委員会 菅原章太様

[パワーポイントにて説明]

モノづくりのまち東大阪、今の東大阪のモノづくりを支えているものということで、東大阪を中心とした交通網が東西南北に非常に発達しています。そして6つの鉄道があり、これが東大阪の大きな特色ではないかと思います。東大阪でつくられたものが全国各地に運ばれていく、交通網の発達がモノづくりを支える条件になっていると感じています。



今日は銅鐸のお話をします。

銅鐸—魅了する青銅の輝き、20 年ぐらい前、八尾市で下水道工事の時に偶然銅鐸が発見され、出土した瞬間は黄金色で数分もしないうちに茶色になったということです。原材料は銅と錫の合金で、銅鐸は 10 年前の資料によりますと日本全国で約 600 個出ています。銅鐸が一番発見されているのは小高い山の斜面で、そこから固まって出たことがあります。そのあたりが銅鐸の神秘性かと思います。弥生時代には国内で銅や錫は産出していなかったの、中国大陸から朝鮮半島をへて日本に入ってきたと思われますが、どのように運んだのかはまだ分かっていません。

鬼虎川遺跡から銅鐸の鋳型が出ています。その鋳型を元に、こういうのではないかということで復元しました。早川和子さんという文化財の復元図、想像図では日本有数の方の本に「銅鐸を使った祭祀」のイラストがあります。大よそこういった形で間違いないだろうというところでの想像図です。銅鐸は今でなぞらえると鐘、お寺にある鐘は外から撞きますが、銅鐸は筒の下に舌があつて、それを上下左右に動かして鳴らします。非常に澄んだ音です。巫女さんが銅鐸を鳴らすのは王様のお出ましの合図、神様を呼ぶ役目をしていたのではないかと思います。人々は王様に崇敬を誓いながら、稲作の豊作を祈っていたと思われます。縄文時代、1 万年ぐらい前は日本に稲がなく、2300 年ほど前に中国から稲作が伝わってきます。弥生時代を特色づけるのはお米作りの文化が伝わったこと、もう一つは青銅器、銅鐸の文化です。銅鐸は稲作と密接に関わりながら生み出され、銅鐸を鳴らして米作りの神様を呼んだと考えられています。

銅鐸には様々な形があります。時代が下るにつれて銅鐸が大きくなり、装飾が華美になり、外側に飾り耳が付くようになります。そして裾の方が広がってきて、空洞内部の突帯がなくなり、「聞く銅鐸」から「見る銅鐸」に変わってきます。また、鋳型が石製から土製に変わっていきます。一つの銅鐸から複数の銅鐸が生まれるのが石製の特色ですが、土製になると中の銅鐸を取り出す時に鋳型を割るので 1 回きりになります。銅鐸の始まりは恐らく弥生時代中期頃、今から 2000 年ぐらい前、終わるのは 1700～1800 前、200～300 年の間に銅鐸が生まれてなくなったと考えています。

鬼虎川遺跡は、北側に鬼虎川が流れていたことから鬼虎川遺跡という名前になりました。銅鐸の鋳型は石切生喜病院をつくる時に発見され、鬼虎川遺跡の一番の中心地です。新石切駅から西へ約 550m、鬼虎川遺跡の発掘は昭和 54 年に始まりまして、銅釧、銅剣の鋳型なども出土しています。鬼虎川遺跡かその周辺に弥生の王様がいたことは間違いないと考えられます。河内を代表する青銅器の鋳造センターが鬼虎川遺跡であるのではと感じています。

銅鐸の鋳型が居住域から少し下った傾斜面から出ています。付近から銅鐸をつくった工房を示すものは見つかっていません。鋳型は石製で、銅鐸がつくられなくなってから、刃物を研ぐ砥石として転用されています。

鬼虎川から出雲へ、銅鐸を介した交流、交易がありました。平成 8 年に島根県の加茂岩倉遺跡から 39 個の銅鐸が出てきました。このうち 12 号銅鐸は鬼虎川遺跡の鋳型から復元される銅鐸と大きさや形、文様などに全く同じ特徴が認められます。鬼虎川或いはその周辺で製作された銅鐸が、西へ 260 km の加茂岩倉遺跡まで、大変離れたところへ持ち運ばれていたということです。今から 2000 年前の話だということをご理解頂ければ有難いです。

鬼虎川は河内潟に面しています。2000 年ぐらい前までは大阪湾から今日の東大阪市内の方に入り江が入り込んでおり、入り江に面して鬼虎川遺跡がありました。鬼虎川遺跡の下に縄手とか瓜生堂があつて、村を行き来する道があつたのではないかと考えます。鬼虎川から北西方向に東奈良があつて、そこからも銅鐸の鋳型が沢山出ています。東奈良の周辺と摂津あたり、鬼虎川、この二つの青銅器をつくる拠点があつたのではないかと考えています。青銅器をつくる素材は海から運ばれてきたというところを見て頂ければと思います。

鬼虎川の鋳型は石製で、この石は和泉地方で採れる石です。詳しく調べますと今の徳島県の吉野川をさかのぼったところの砂岩に近いものだということが分析の結果、分かっています。和泉砂岩というのは、今は使われなくなりましたが非常に軟らかい石で、江戸時代には墓石によく使われていました。

平成 23 年に機運が熟したといえますか、銅鐸を復元してみようということになりました。平成 23 年 8 月、実物は古代出雲歴史博物館にあるので、そこで

精密な写真撮影をさせて頂いて、9月にまず木の型枠をつくりました。同じ年の11月から12月にかけていよいよ銅鐸の復元製作にとりかかりました。その間に試作品を2回つくって頂きましたが、2回とも具合が悪く、何度もやりとりをさせて頂いて、24年1月に銅鐸が完成致しました。

元々は石の鋳型ですが、現在の技術をもってしても石面に銅鐸の文様を彫り込んで銅鐸をつくるという技術は困難だということで、土製のやり方で行いました。まず中型をつくるために木製の型枠をつくります。分かりやすいというと、鯛焼きをイメージして頂けると分かりやすいのではないかと思います。銅鐸の復元図を元にして、木型を1対製作します。木型の周りに鋳物用の砂を入れて炭酸ガスを吹き付けて化学反応を起こさせて鋳型の外側をつくります。木枠を押しつけて更に鋳型の外枠をつくるという格好です。鋳型をつくる時に鋳型面の損傷を防ぐために薬品を塗ってアルコールを飛ばします。まずは鋳型を完成させて、外側1対と中型、木枠の中型を砂の上に押し付けて木枠の文様を写し取る、それから中型をつくっていきます。外型2枚と中型をずれないように合せて湯口、溶けた銅を流し込むところを合せて鋳型全体を固定します。そして熔解炉で1200℃に熱した熔銅を取瓶に移して鋳型に流し込みます。できあがったものに色々なバリがついていきますので、そのバリを削り取って銅鐸の完成です。

上田合金さんにつくって頂きましたが、社長さんが私に何度も「現在のハイテク技術をもってしても、厚さ数mmの銅鐸をつくるということはなかなか難しい。100点満点の銅鐸は100点つくって1点あったらいい方や」とおっしゃっていました。現在の技術をもってしても銅鐸をつくることは難しく、その難しい技術を既に2000年前に、この東大阪の地でつくっていたという証拠が出てきたというところをご理解頂ければと思います。

古墳時代から奈良時代の河内周辺の図、十字になっており、南北に走っているのが後の時代の東高野街道と言われる道路で、おおよそ今の国道170号線になります。東西方向に走っているのが今の国道308号線、中央大通りだと思って下さい。そういうものが実は古墳時代に確実にあったということです。交差点にあたる鬼虎川から物が運びやすいということが言いたいわけで、現在のモノづくりを支えている

条件は、既に古墳時代、弥生時代にあらわれているということが読み取れます。

私が一番言いたいのは弥生時代にさかのぼるモノづくりの源流、モノづくりは東大阪から始まったというところを皆さんにご理解頂きながら、東大阪の昔の文化についてのご理解と、郷土に対しての誇りを持って頂ければ有難いかなと思っています。ご清聴有難うございました。

2019年ラグビーワールドカップ受入れ準備状況報告

東大阪市ラグビーワールドカップ2019推進室

次長 千田拓也様

本日は東輪会合同例会にお招き頂きまして誠に有難うございます。また、日頃より東大阪市政に格段のご理解とご協力を賜りまして併せて感謝申し上げます。さて2019年のラグビーワールドカップ日本大会の開催まで9月20日をもって2年前を迎えました。11月2日には各開催都市の対戦カードや試合の日程が決定されると一部報道で発表されています。我々と致しましても2019年ラグビーワールドカップ、その後に続く2021年のワールドマスターズ関西の開催に向けて東大阪市を活性化させる最大のチャンスであると考えています。その契機を逃すことなくより一層の機運醸成に取り組んでいるところで

主査 谷口哲也様

花園ラグビー場の主な改修点は北側サイドスタンドの新設、南側サイドスタンドの増設、ナイター設備の新設、大型映像装置の新設、全座席の改修を行います。座席数は21,000席、開催時には仮設も含めて約24,000席のスタジアムに生まれ変わります。この工事は平成30年9月の完成を目標にしています。工事中の試合は29年度の全国高校ラグビー大会のみを開催致します。今年のイベントとして11月4日にラグビーのまち東大阪の夕べを花園中央公園で実施致します。また、トライくんは今年のゆるキャラグランプリで現在3位です。1位を目指して奮闘していますのでご協力を頂ければと思います。ラグビーワールドカップまで機運を醸成することを目的に開催までのカウントダウンを実施しています。残り日数を記載しましたラグビーボール型のパネルを持った方に登場頂きまして市のウェブサイトやJ:COMで放送されています広報番組、Facebookで公開されています。ラグビーのまち東大阪基金について、これ

グオバツキ、ヤクブ ボイチェフ

はラグビーワールドカップ開催費用、花園ラグビー場改修費用、ラグビーの普及及び育成に活用するためのものです。税制上の優遇措置もあり、個人の場合はふるさと納税の対象となります。平成30年12月31日までに5万円以上ご寄付頂いた方については改修後のラグビー場にネームプレートを出張します。ラグビーワールドカップ日本大会成功のために是非ともご協力頂きますようお願い致します。ラグビーワールドカップという世界的な大会が身近に開催されるということで、世界に東大阪の魅力を発信する素晴らしい機会となります。世界の強豪が戦う姿も生でご観戦頂ければと思います。本日は有難うございました。

飯田政信会員 旭日双光章 叙勲祝賀会

おめでとうございます！



今回のレポートでは本滞在中に感じたことについて、私の感想を纏めてみたいと考えています。特に今回中心にしたいのは「目立つこと」です。

母親が初めて私の日本での生活を見に来た時に言われたことが印象に残りました、「日本は観光で来ることは楽しいけど、ずっと住むと自分いつも周りの人とすごく違うことが気になる」という一言でした。そう言われるまで、自分が周りの人と見た目や文化とそれらに含まれている様々なものが違うことにももちろん気づいてはいたのですが、それが悪いことだと思ったことがないと思います。

実は日本に住み始めて3年間以上経った今もそれが悪いか不愉快なことだと思っていません。日本の社会では目立つことがあまりよくありませんが、それはわざと自分を目立させることに限られているのではないのでしょうか。そして、私の母親に言われたこととは私の考え方が違うと思います。「目立つことが気になる」というのは極めて個人的な感情なのですが、私の意見では考え方を変えたら、周囲の人とは違うことで得られることもたくさんあります。

例えば、出身が違うということだけでたくさんの人に興味を持たれます。母国では私は決して人の関心を引くような人物ではありませんでしたが、日本にいる間たくさんの知り合いや友だちができました。違う考え方もあります。

外国人で日本に来ると「子供」のような扱いをよく受けます。それが嫌がる人もいますが、言葉が分からなかったり、やり方が知らなかったり、何かで困ったりすると怒られることがほとんどありません。もちろんそれに甘えてはいけませんが新しいことを覚えるにたっぷりの時間を与えてもらえます。

このレポートで言いたかったのは日本にいる間「目立つこと」は決していつも悪いことではありません。「目立つこと」が気になる留学生に向けて、考え方を変えたら、自分が「違う」のではなくて、「特別」と考えてみてほしいです。